

福祉の充実を図り、とりわけ高齢者が安心して住めるまちに

問 国民健康保険・後期高齢者医療制度・介護保険制度などにおける高い保険税(料)や滞納・正規保険証のとりあげなどさまざまな問題解決をはかるべきである。

答 国庫補助の国の負担については、いろんな場面で要望をおこないつつけていく。

問 国民健康保険の制度の広域化や介護保険の要支援1・2を制度より外すなどの改悪計画が出ているが、どのように考えているのか？

答 国や県の動向を注視し対応を進めて行く。

問 特定健診を受ける人をふやす、保健指導を広げるなど、きめ細やかな対応をするためには、保健師がキーだと考える。健康のまちづくりを推進するためにも保健師を増やすべきと考える。

答 非常勤職員を増員し保健指導を強化する計画だ。

問 市民参画と共同によるまちづくりを

問 市民の声を市政に生かしていく。その方法のひとつとして審議会等の公募委員制度があるが、その主旨にそわないと思われる事例があった。見解を伺う。

答 主旨にそってやっている。

問 福津市の高齢化率は、平成37年度で36%と推定している。また65歳以上の独居世帯率は、平成22年度ですでに9.6%に達している。

答 地域の現実をふまえた地域自治政策が必要だ。

問 限られた職員数の中で行政サービスをしなければならぬことを理解いただきたい。

問 津屋崎庁舎の施策も明確でない。約13.5億円もかかる統合は問題だ(P①を参照を)。

答 統合の方針ですすめる。

4月11日(金) 福岡県南市議会 議長会 八女市にて

福岡県南市議会は北部と南部の市議会議長会があります。北部は北九州を中心とした市議会です。

南部市議会議長会は、福岡市、久留米市、大牟田市、柳川市、朝倉市、筑後市、大川市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、糸島市、古賀市、福津市、うきは市、みやま市、八女市の19の市議会です。

本日は、春の総会で地域の要求を福岡県、九州、全国へ提案する議案について決定しました。

今回は、柳川市提案の

「有明海再生特別措置法に基づく有明海対策事業の充実」

大野城市提案の

「所得税法の寡婦控除制度の改正」についての2議案の審議・決定をしました。



市民要求・チェック機能大丈夫かな？

福津市議会定数条例を制定 2議席削減18議席に

福津市議会の議員定数条例を制定し、議員定数20人を2削減とし18議席とする議員発議が提案され賛成多数で可決されました。実施時期は平成26年12月(今回選挙)よりとなります。

① 市議会は、二元代表制のもと行政の監視・チェックをするのが役割。削減により行政のムダなど見過ごすことになったら大変。② 市民の声・要求等を市政に反映させることが議員の任務。削減により議会の力を弱めてはいけない。よって反対とした。

庁舎統合・何が問題？

庁舎よりも学校整備や市民生活事業を優先に

市民の身近な暮らし応援に優先してお金は有効に使うべきです。今年度より、公共施設の利用料の値上げをし、あらたに市民に負担を求めています。その金額は約220万円。その反面、市民全体の望みとは言えない庁舎統合に約13.5億円も投入しようとするなど逆さまで。生活道路や小中学校全校冷暖房などの整備、子育て支援等を優先すべきです。

庁舎統合の全体像はまだ誰のため統合なのか

合併前は分庁方式と市民に言っているながら合併後、庁舎統合を打ち出し議会より二度否決をされました。今度は福岡庁舎を先行し津屋崎庁舎は今後検討するとして全体像を明確に示さず、統合費用も明確に示さないというやり方で庁舎統合を進めようとしています。

約13.5億もかかる庁舎統合よりも市民の身近な暮らし応援を優先すべきです



現庁舎裏に3階建ての建物の新築と改築の計画(福岡庁舎) 地域の活性化に必要(津屋崎庁舎)

市民の暮らしが大変な中なのに、今庁舎統合に大金を投入するべきではないと考えます。

市のアンケート結果からも多くの市民は統合を望んでない

平成23年3月に発表された市のアンケート結果からみても多くの市民は庁舎の統合は望んでいません

⑥市役所を訪れて困ったことや不便に感じたこと(調査数2018人)

- 困ったことや不便なことは特にない847人(42%)
●一つの庁舎だけで用事がすまないで260人(12.9%)
●あとは行きたい部署や駐車場で困った等々で911人(70.8%)

⑦市役所を統合した方が良いと思うか(調査数2018人)

- 統合した方が良いと思う897人(44.5%)
●統合する必要はないと思う663人(32.8%)
●どちらでもよい等458人(22.7%)

※⑥では、庁舎が2つあるので困ったは12.9%です。
⑦では、統合必要ない・どちらでも良いを合わせれば統合を望んでいる人が多いと決めつけることが出来ないと判断されます。

Publication information for '市議会ニュース' (Municipal Assembly News) NO40, April 2014. Includes contact info for editors and publishers like 戸田 進一 and 大久保三喜男.